

化女沼

(けじよぬま)

位置：北緯38度37分、東経141度57分／標高：25.9m／面積：34ha／湿地のタイプ：ダム湖、淡水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：宮城県大崎市／登録：2008年10月／国際登録基準：2、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：ダム湖、淡水湖



南側から見た化女沼



ダム管理事務所（観光資料館）から見た沼の全景



亜種ヒシクイとオオハクチョウ



マガンの飛び立ち

湿地の概要：

宮城県北部に広がる北上平野は、岩手県から南下する北上川、秋田・山形両県の県境から東に流れる迫川や江合川などで形成された低湿地帯で、洪水を繰り返しながら、堆積した肥沃な土壌が豊かな稲作地帯を作りあげてきた。

江合川支流の田尻川も、川幅が狭く、水はけの悪い低地を流れ下るため、氾濫と洪水を繰り返してきた川である。

大崎市の中心部から北西約5kmにある化女沼は、田尻川の洪水調整と灌漑用水用の、周囲約4kmの治水ダム湖である。もともとあった自然の沼をもとに、300年以上前に作られた農業用のため池を造成して、1995年に完成した。

流入する自然河川はなく、雨水と湧水と洪水時の導水を貯水する。南端のダム堤からは、長者川を通して、再び田尻川に放流される。

沼をとりまく好環境：

沼の水深は通常時で4mと浅く、ハスやマコモ、ヒシなどの水生植物が繁茂する。

一帯はなだらかな丘陵地で、南東側には水田が広がり、ハクチョウ、ガンカモ類の日本有数の越冬地となっている。ダム堤南東端にダム管理事務所があり、観光資料館が併設され、2階から沼の全景を望むことができる。また北西側を走る東北自動車道の長者原スマートインターチェンジからは約5分でラムサール条約湿地に行くことができる。

化女沼のほかに東12kmには蕪栗沼・周辺水田、北東15kmには伊豆沼・内沼の二つのラムサール条約湿地がある。

沼を特徴づけるガン類：

化女沼は真冬でも完全に凍結しないため、マガンやヒシクイ(亜種ヒシクイ)をはじめとする多く水鳥のねぐらになっている。中でも、亜種ヒシクイは、東アジア個体群の個体数の1%以上が越冬し、国内有数の越冬地となっている。

シジュウカラガンは絶滅の危機にあったが、日本を含めた国際的な保護の取り組みにより羽数が回復し、現在は毎年2,000羽程度が化女沼や蕪栗沼を越冬地

として利用している。

越冬する亜種ヒシクイは採餌のため、日の出前に沼を飛び立ち、夜遅くに戻ってくる。これに対し、シジュウカラガンは日の出とともにマガンと一緒に飛び立ち、夕方は日の入り前後にマガンと一緒に帰ってくる。この時期には、朝夕に一斉に飛翔するダイナミックな風景を見ることが出来る。

住民参加：

大崎市やNGOにより、環境教育ゾーンの整備や特定外来生物の防除、湿地や周辺里山環境の再生・維持管理等の取り組みが住民参加型で行われている。

●関係自治体

大崎市役所 Tel: 0229-23-2111

●関係機関

化女沼ダム観光資料館

Tel: 0229-28-1353

